



従業員に収穫について指示する法人経営者

多様な担い手による安定的な農業経営体に向けて

個人経営から法人経営に転換し 取引先の信頼を高め新たな販路を獲得

北野町・農業経営の法人化

農業を支える担い手



大葉の収穫作業。作業には多くの労力が必要となります。

市内には、約8千件の農家があり、そのほとんどは家族経営による小規模な経営となっています。

その一方で、経営規模の大きな農家の中には、家族以外の労働者を雇用したり、経営を法人化するなど新たな農業経営を進めています。

特に北野町は、筑後川の豊富な水と水はけの良い肥沃な土壌を利用して、県内有数の野菜の産地となっています。

野菜の生産は、植付け、毎日の手入れ、収穫後の出荷調整作業など、とても多くの労力が必要です。

次代の農業のために
農家の法人化を進め
経営の安定化を図る

法人化によって 社会的な信用を高め 売上げを伸ばす

北野町で、約2ヘクタールの農地に建つハウスで大葉、パセリ、バジル、スペアミント、ローズマリーなど香草約25種類を栽培する農業生産法人の有限会社「久保田園芸」は、市内に28社ある農業生産法人の代表的な法人のひとつです。もともとは、法人の代表者である久保田壽さんが個人で経営する農家でしたが、1993年に取引先にアピールできると考え、法人化しました。

法人化した結果、久保田さんの農業経営には、社会的な信用が高まり、取引先との信頼度が増し、売上げが大きく伸びる結果となりました。

また、販路の開拓もしやすくなり、関西地区にある大手百貨店等との商談に



も結びつきました。

次世代の農業を担う 若い社員が活躍

久保田園芸では、7名の従業員やパート社員が働いており、厚生年金、雇用保険、退職金制度など他産業のサラリーマンと同様の労働条件により、安心して働ける環境が整っています。

このうち2名は、20〜30歳代の若い社員です。代表の久保田さんは、安心して働きながら、技術を習得し、次の世代の農業を担う人材に育って欲しいと考えています。

農業に就業する方の約半数が65歳以上であるなど、本市の農業者の高齢化は年々、顕著になっています。

その一方で、毎年20名程度の農業後



継者が新規に就農しており、次の世代の本市の農業を担う人材として、営農技術や農業経営などを日々、先輩農業者から学び研鑽を図っています。

(上)久保田園芸の主力商品である「ミント」。ほぼ1年を通じて生産、出荷されています。

(中)出荷調整作業を行う久保田園芸で働く従業員の皆さん。他産業のサラリーマンと同様の労働条件により安心して働ける環境が整っています。

(下)久保田園芸で生産される農産物は市内をはじめ九州各地、関東、関西向けに出荷されています。



水田農業の担い手の優良事例として 福岡県知事賞などを受賞



(上)全国優良担い手表彰を受賞するFarm ZENの鹿子島組合長、
(下)FarmZEN等で生産される特別栽培米「JAくるめ・ほとめぎ」



善導寺町を中心に水稻、麦、大豆を生産する「Farm ZEN」は、地域の202戸の農家で構成される集落営農組織です。

平成18年の設立後、経営の効率化、組織の安定化を進め、平成21年に既存の機械利用組合と統合することで、さらなる体制強化を図りました。

また、畜産業が多く営まれている地域特性を活かして、畜産堆肥を利用した土づくりを進めています。土づくりと減農薬・減化学肥料にこだわって生産された特別栽培米は、「JAくるめ・ほとめぎ」の銘柄として道の駅くるめ等で販売されています。

このような取組みが評価され、「Farm ZEN」は、平成21年に福岡県優良担い手表彰(県知事賞)、全国優良担い手表彰(農林水産省経営局長賞)を受賞しました。